

平成 30 年度 シラバス (半期 15 回授業用)

科目名	現代ファイナンス論 II	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目群 (第 1 グループ) <input type="checkbox"/> 総合科目群 (第 2 グループ)
			経済学科 <input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択 学科 <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
英文表記	Theory of Modern Finance II	開講年次	<input type="checkbox"/> 1 年 <input checked="" type="checkbox"/> 2 年 <input type="checkbox"/> 3 年 <input type="checkbox"/> 4 年
ふりがな	やまもと しゅん	開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
担当者名	山本 俊	修得単位	2 単位
授業のテーマ	複雑な金融取引における合理性と、基本的な分析技法を中心に学習する。		
授業概要	現代ファイナンス論 I の学習内容を深めて、より専門的かつ実践的に学習する。		
到達目標	自らが直面するファイナンスに関する課題に対して、学習したことを基にして主体的に考えることができるようになること。		
授業時間外の学習	定期的に確認問題を配布するので、解答した後に提出して欲しい。		
履修条件	現代ファイナンス論 I と金融機関論を履修済みか、または同時履修して欲しい。		
授業計画	講義資料と教科書を併用して授業を進める。		
第 1 回	テーマ：ファイナンスの面白さ モラル・ハザード、リスクヘッジ、投資行動と心理		
第 2 回	テーマ：投資の評価方法① 収益率の比較か？それとも初期投資額の比較か？		
第 3 回	テーマ：投資の評価方法② n 期間を想定した 2 つの評価方法		
第 4 回	テーマ：投資の評価方法③ 正味現在価値法		
第 5 回	テーマ：投資の評価方法④ 内部収益率法		
第 6 回	テーマ：投資の評価方法⑤ ゴールシークを用いた計算方法		
第 7 回	テーマ：応用的な株価決定モデル① 一定成長 DDM		
第 8 回	テーマ：応用的な株価決定モデル② 株価マネージメントとインサイダー情報		
第 9 回	テーマ：リスク管理① リスクの定量化。「リスクって悪いものなの？」		
第 10 回	テーマ：リスク管理② リスクの定量化。「リスクの大きさをどう測定するのか？」		
第 11 回	テーマ：リスク管理③ ポートフォリオの期待収益率とリスクの定量化。		
第 12 回	テーマ：リスク管理④ 証券の収益率の相関係数とポートフォリオ		
第 13 回	テーマ：リスク管理⑤ 不確実性下の投資決定行動と 2 パラメータアプローチ		
第 14 回	テーマ：リスク管理⑥ 最小分散ポートフォリオと最適ポートフォリオ		
第 15 回	テーマ：リスク管理⑦ CAPM の考え方		
第 16 回	定期試験		
テキスト	晝間文彦『基礎コース金融論』(第 3 版)、2011 年(金融機関論と同じテキストです。)		
参考文献・資料	ボディ・マートン『現代ファイナンス論』(原著第 2 版)ピアソン桐原、2011 年(著者はノーベル賞受賞者)		
成績評価の方法	期末試験 60%、課題 30%、コメントシート 10%の合計を基に評価する。 秀:90%以上、優:80%以上、良:70%以上、可:60%以上、不可:60%未満 確認問題を配布する。受講者は自らの理解度を確認するためにも必ず解答すること。 試験については努力が報われるような出題を心がける。		
オフィスアワー	月・水・金曜日の 5 限をオフィスアワーとする。ただし、研究室に在室中は原則として質問に応じる。		
学生へのメッセージ	第 13 回目以降では、複雑な理論についても言及する。受講者の積極的な学習姿勢を期待する。ただし、数式の厳密な展開よりも、考え方をより重視する。		

